

拓たる 西別院だより

みんなの力で本堂平成大修復を成功させよう
報 恩 講 号



上棟式直前の大屋根

平成15年度本願寺小樽別院報恩講法要を10月12日(日)より16日(木)までお勤めいたします。

・若竹説教所の報恩講は、9月7日(日)にお勤まりいたしました。

説教所・教化団体

報 恩 講

9月28日(日)	仏教婦人会	報 恩 講
10月25日(土)～26日(日)	新光説教所	報 恩 講
11月 9日(日)	緑説教所	報 恩 講
11月22日(土)～23日(日)	奥沢説教所	報 恩 講
11月	仏教青年会	報 恩 講
12月中旬	仏教壮年会	報 恩 講

10月12日(日)より16日(木)まで、月忌参詣をお休みさせていただきます。

進む修復工事

ご進納は早期に

上棟式を終えて



輪 番 片 山 晃 英

今年は大変天候不順な年でございますが、皆様にはご健勝にてお過ごしのこと大慶に存じ上げます。

平素より小樽別院の護持発展のため、また昨秋より九十年振りという本堂大修復も、皆様の格段のご協力を頂戴致しておりますこと、厚くお礼申し上げます。

ご別院の本堂は、私達のご先祖方が当時の門信徒の力を振りしぼり結集して、小樽における最大級の木造建築として、ご先祖の往生するところ、生きる悩みを吐露するところ、私達の浄土真宗のみ教えを聴く中心道場として造営し、お法りを連綿と伝えた『いのち』のふるさとです。

二十一世紀初めの大修復は、先祖が伝え遺して下さったものを今度は私達の手で、こころ新たに

に現世にお浄土（仏の国）を莊嚴し、子々孫々に引き継ぐのが役目であります。

さて、去る九月六日には大勢の皆様のご参加を得まして、伝統儀式による修復上棟式を無事終えることが出来ました。今後は愈々本堂大屋根の瓦葺き・鐘楼堂の瓦葺きが始まり、室内は木工事が佳境になり、ご修復も初冬には本堂瓦葺きの外観がその勇姿を現す予定であります。

このご修復の源泉となります懇念のご進納を昨秋以来、各門信徒の家々にご依頼し約一年が経過致しました。しかしながら工事の進行の源泉となりますご懇念は、必ずしも順調とは申せない現状にあります。

つきましては、門信徒有縁の方々の尚一層のご理解とご協力を重ねて申し上げ、更なるお願いを致し、早期のご懇念の進納をお願い致す所存であります。

例年の通り別院の報恩講法要は、十月十二日深夜より十六日の満日中まで仮本堂を中心にお勤めさせていただきますので、お誘い合わせの上お参りくださいますようお願いしております。

合掌

◆宗祖親鸞聖人報恩講法要日程表◆

★仮本堂

期 日	時 間	法 要 ・ 行 事	布 教（法話）
十日（金）	九時十五分 十時三十分	○双葉高校参拝（学生） ○三園合同参拝	
十一日（土）	六時三十分 十三時三十分	○晨朝（正信偈行讀六首引） 和讃「三朝浄土」 ○日中（十二礼作法） ○速夜（奉讃大師作法） 御伝鈔上巻拜読	布教一席 青木師
十二日（日）	六時三十分 十時 十三時三十分 十八時	○晨朝（正信偈行讀六首引） 和讃「五十六徳」 ○日中（十二礼作法） ○速夜（奉讃大師作法） 御伝鈔下巻拜読 ○初夜（般舟讃） 祖徳讃仰	崇敬法中（三十分） 布教一席 青木師
十三日（月）	六時三十分 十時 十三時三十分 十八時	○晨朝（正信偈行讀六首引） 和讃「尊者阿難」 ○日中（十二礼作法） ○速夜（奉讃大師作法） 御伝鈔下巻拜読 ○初夜（日没礼讃偈） 祖徳讃仰	崇敬法中（三十分） 布教一席 青木師
十四日（火）	六時三十分 十時 十三時三十分 十八時	○晨朝（正信偈行讀六首引） 和讃「尊者阿難」 ○日中（十二礼作法） ○速夜（奉讃大師作法） 御伝鈔上巻拜読 ○初夜（初夜礼讃偈） 祖徳讃仰	崇敬法中（三十分） 布教一席 青木師
十五日（水）	十八時	○物故者追悼法要 ○初夜（初夜礼讃偈） 祖徳讃仰	布教一席 青木師
十六日（木）	六時三十分 十時	○後夜（讚仏偈） ○晨朝（正信偈行讀六首引） 和讃「弥陀成仏」 ○満日中（報恩講作法） 代表焼香・御礼言上	布教一席 青木師

講師／浄土真宗本願寺派布教使

青木 圓成 師



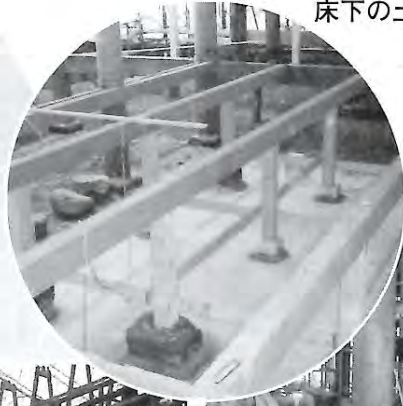
ご本堂御修復通信



第三回 ご本堂の修復状況



①



床下の土台と束



②



ご本堂内での作業

①～④屋根野地板の取り付け作業



③



90年の風雪に耐えた本堂鬼瓦（重さ約1トン）



④

本堂修復懇志完納者ご尊名

(平成十五年八月三十一日現在)

●天井絵特別懇志

金貳百萬元

宮本 英子

高橋 米蔵

川上 正美

北川 紋二

猪田 格一

小紙 文隆

福島 正紘

竹田 栄治

寺澤 スガ

田村 ヒロコ

金壹百萬元

澤田 京子

早見 三郎

宇野 信子

小竹 一央

三箇 一弘

宮本 和彦

辻 啓子

白勢 ヨシ

本間 正一

西野 喜十

柴田 良雄

佐野 喜造

辻井 富士男

田中 修次

宮本 みい

福村 要吉

中川 なを子

佐藤 実

西田 正信

●本堂懇志完納者

金貳百貳拾萬元

川崎 正吉

高岡 フミ

松川 企一

近藤 英夫

牧田 全弘

星野 清成

井上 栄

福川 イサ

島本 邦子

森 政一

金八拾萬元

駒寄 初枝

辻井 幸雄

大野 友暢

今井 百合子

奥田 百合子

辻井 富男

佐藤 又一

亀山 美恵子

花和 常三

松井 美智子

堀田 初子

大西 公子

四方 薫三

五十嵐 清彦

佐々木 百合子

井田 長女

井上 勇

辻井 聡克

水上 美枝子

関 藏

栗林 務

河田 安正

牧田 全弘

前田 清一

森 政一

猪股 喜行

辻 博子

辻本 辰雄

平田 晴巳

安宅 淳

嶋田 善雄

猪田 昭司

福川 イサ

三井 昭

石墨 仁一

藤原 昇

三浦 幸子

虎谷 賢一

野田 明

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

見延 昌治

高橋 敏明

貴正 政行

瀧田 菊一

辻 啓子

辻田 キミ子

坪田 節子

中嶋 知江

福井 八重子

宮本 和彦

森谷 久子

山内 雅一

山下 法子

吉村 治彦

荒井 辰義

荒田 れい

石倉 利夫

石谷 多美子

猪田 耕市

猪田 芳枝

今井 百合子

岩船 寿

碓井 正

大野 アイ子

亀山 美恵子

中田 宏

鳴井 喬浩

林屋 美智子

深川 正雄

藤野 信一

本間 昭吉

松原 良勝

新木 久子

五十嵐 タマ

宇野 信子

大浦 義教

大竹 トモ子

大野 友暢

岡川 昭男

金森 玲子

北村 潔

桑原 茂夫

伏黒 敬一

是安 正和

高瀬 一彰

高本 幹也

塚田 郁雄

辻 國夫

寺澤 スガ

中村 喜照

馬場 誠二

古澤 ミキ

本間 祥一

最上 英世

本江 正臣

山本 タマ

吉田 芳子

石田 博

岩山 豊

鷹野 正義

成田 治子

三浦 ユキ

岩井 良子

倉町 栄一

中川 なを子

大橋 百合子

堀畑 義昭

水上 進

宮本 とし子

山岸 勇之助

山口 庄次

鰐淵 誠

荒木 ミツ

梅沢 茂雄

小田 誠

小野 寺一夫

高橋 甫夫

多賀 美枝子

田中 秀雄

大門 治雄

西野 喜十

花本 和夫

久木 まさ

平野 マキ

福井 谷高信

福井 谷真理子

堀田 初子

安川 吉松

山口 昇

吉村 公乃

江上 幸一

大坂 敬一

大西 ヒデ

奥田 百合子

川上 公

木原 横枝

小林 薫

新出 廣

田宮 恭子

辻井 幸雄

中村 澄

東出 静子

本間 静枝

本間 正一

毛利 邦夫

八ツ井 健二

吉川 常男

飯島 重良

猪田 格一

岩井 加代子

大橋 梅次郎

金山 カツ子

亀田 よね

川脇 ふさ

木下 秀子

佐野 喜造

佐野 清一

高橋 勝也

田中 さき代

辻井 富士男

川口 孝弘

川原 菊代

北飯 セツ

鈴木 博子

瀬戸川 義明

高畑 菊美

田中 ハル

田宮 馨

千坂 弥生

辻井 富男

中津 サタ	田中 修次	西田 正信	松本 耕一	吉岡佐代子	布日 寿子	金壹萬円	大成寺(宗谷組)
中村 訓敬	谷口 與一	長谷川 勉	深尾トメ子	駒寄 初枝	●本堂協賛特別懇志	金壹萬円	内藤 良照(本山部長)
畑 範雄	土野 タマ	馬久地チヨ子	清水平太郎	羽崎 輝	波多野昭方	金壹百萬円	白川 了信(本山管事)
藤井 武史	長谷川良子	松本 良造	松浦 英尾	井田 長女	●崇敬寺院修復懇志	金壹百萬円	●その他修復懇志
松井美智子	福井 千代	森 吉勝	齊藤 光枝	飯田 英一	高柳 廣章	金壹百萬円	金壹百五十萬円
村林 信三	藤松 義之	工藤 忍	佐川 秀逸	岡田 菊江	仏教婦人会	金壹百萬円	片山 晃英
室谷 ヤス	杉山 栄郎	河野末五郎	高橋 米蔵	竹内侃二郎	●他門徒懇志	後志組	金壹百貳拾萬円
山上 順子	中舎 光子	佐々木朋子	鳴海 正一	高島 茂	●他門徒懇志	光昭寺(後志組)	西川 達恵
吉井唯三郎	野田 明	野田 明	西森キミ子	谷本 八郎	中井 留子	金六拾萬円	武藤 三孝
吉岡 英彦	野田恵美子	野田恵美子	宇野 鉄一	滝田 章治	小野田儀信	金六拾萬円	金壹百萬円
吉田 寿夫	吉田フサエ	吉田フサエ	長下部キミ	竹内ハル子	白崎 義朗	金六拾萬円	鷲頭千津子
鰐淵昭一郎	佐藤 利次	山崎スミ子	長谷川健治	宮下 雄宇	瀬戸川鶴雄	法雲寺(宗谷組)	金八拾萬円
赤丸 愛子	宮本 英子	四方 薫三	福田 ミヨ	黒田 康子	宮川 省吾	白崎 義朗	村上 隆昌
荒井 義光	大沼 昭雄	及川 絹江	平口山紀美子	富田 洋平	折橋 知代	長谷川好明	金六拾萬円
海老名年行	林 千鶴子	清水サツキ	山田 藤夫	大村カツ子	日和 裕子	姫野美耶子	金四拾萬円
奥山 敏三	鎌田 美代	大原 美佐	菊 豊	北村美智子	山部 博幸	上出 一雄	大成寺(後志組)
加藤 精一	林 永正	川崎 正吉	山部 博幸	山部 博幸	高野 敏雄	杉本 禮子	永福寺(留萌組)
黒川 昭和	山田 ひで	児玉 京子	相馬 燁子	萩野 稔	高野 敏雄	永森 静子	名取美枝子
坂田 知子	久保 敏男	古瀬 澄	古川 治	中西 妙子	高野 広	宮口 久子	多賀 修
佐藤 新治	横谷チエ子	安川 雄司	山田 清和	山田 清和	小紙 文隆	脇本 悦子	脇本 悦子
柴田 良雄	田中 ミツ	山田 雄司	山田 清和	山田 清和	田中 宏	井上 勇	照覚寺(後志組)
島田 フミ	松川 企一	山田 清和	山田 清和	山田 清和	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
清水サツキ	悦水 勇	浅田 敦蔵	東田 正一	東田 正一	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
武部 喜夫	鍵市 勝秀	佐藤 久行	藤沢 尚士	藤沢 尚士	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
花和 常三	太田 圭祐	徳光 敏子	室谷美美子	室谷美美子	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
松村仙太郎	松山 政義	鎌田 省三	岡田美津枝	岡田美津枝	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
宮崎 愛子	鈴木 定夫	田邊 ナツ	木下 義明	木下 義明	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
村木 誠一	大西 公子	五十嵐清彦	小前真智子	小前真智子	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
室谷 和嘉	村田 キミ	清水喜代子	佐藤 嘉晃	佐藤 嘉晃	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
安田 クニ	境 君子	竹田 道治	清水 幸延	清水 幸延	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
阿波カラル	加藤 キミ	渡辺 てる	高橋 清二	高橋 清二	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
石塚ミサヲ	紅露 文美	宇野 弘昌	高橋 博子	高橋 博子	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
今堀みえ子	高橋 幸彦	大浦 義教	夏伐 静子	夏伐 静子	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
岡 満	新谷富美子	大野 トモ	能町 富雄	能町 富雄	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
掛端 シズ	醉谷 英男	早見 三郎	久住三ツ井	久住三ツ井	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)
倉野 幸夫	中島 信子	福島 正紘	秦 要	秦 要	井上 勇	西田 正雄	真正寺(後志組)

九月一日以降の完納者
ご尊名は次号以下に順
次掲載致します。

別院フォトクラブ 思い出編

▶ 一日研修会（第一班）



▶ 一日研修会（第二班）



▶ 一日研修会（第三班）



▲ 本堂修復説明会

▶ 百日参拝終了式



次回もお楽しみに。

御葬儀 年中無休 24時間受付

有限会社 小樽永楽社

小樽市長橋4丁目2-23
31-4949 (代)

寿司・仕出し・お料理

小樽の味

まちの寿司

小樽市花園1丁目1番4号

TEL 0134 (25) 3430

十人十声

●日々新しく



武藤 二孝
 教育者でもあり、お念仏をよるこぼれた東井義雄先生の詩に「今日という作品をきょうは仕上げさせて

いただく日」というのがあります。私たちはよく、明日はどうしようかと思ひ悩みます。しかし、その明日という日がどうなるのかは誰もわかりません。逆に明日のことを気にかけていけば、今日という日を怠りがちになってしまいます。今日のことを忘れ明日のことばかり考えるから、気苦労も多くなっています。

大切なことは、今日一日をいかにげんに生きるのではなく、今日一日を誠実に生きていくことではないでしょうか。たとえ苦しいことがあっても、今日一日だけと思えば耐えることもできるし、また楽しいことがあっても一日を区切りと考えれば、その楽しさにおぼれてしまうこともないでしょう。

一生という長いように思われますが、長いか短いか誰にもわかりません。明日のことすら誰れもわからない。まして来年のことや、百年後のことなどどうなっているのかを知っている人など誰れもいません。死ぬまでが一生でもありません。明日のことさえわからないのなら、今日そのものが一生ではないでしょうか。

合掌

●甘くて危険なオークション



磯村 真一
 最近、ネットオークション(コンピュータ上で競売する事)を楽しんでいる。一つの商品に対し、

見えない相手と値段を競うのは緊張の連続で、それが非売品だった場合、落札した時の満足感は何とも言えない。

私の場合はマナーをしつかり守っているおかげで、今までにトラブルは全くない。しかし先日報道されたニュースでは、自衛隊の演習で使用された弾(不発弾)を不法に拾い集め、オークションに出品。落札後、宅配中に爆発したとのこと。私にとつてネットオークションはささやかな楽しみであるが、一部の常識のない人達によつて汚されるのは、非常に残念なことである。ネットオークションに限らず、あらためてモラルが問われる。

ちなみに、落札した非売品の殆どがゲームセンターで取れなかつた景品だということ。は、誰にも言えない私だけのヒミツである。

●源信和尚とお母さん



猪口 大悟

七高僧の第六番目の方である源信和尚は、西暦九四二年大和の国、今の奈良県の当麻村に生まれました。幼い頃より神童の誉高く、十五才の時、時の天皇の前で称讃浄土教の御前講義をされ、その見事さに天皇よりおほめの言葉と絹一疋を賜りました。源信和尚は一時も早くこの喜びを故郷の母に知らせようと、使いの者に手紙を持たせました。恩賜の絹を持たせて、大和の国に走らせました。けれども母は様子聞いて、その絹に触れようとせず、手紙を持たせてそのまま使いの者を比較に帰らせました。その手紙には歌が一首

「後の世を渡す橋とぞ思いしに、世渡る僧に
 なるぞかなしき」

と書かれてありました。源信和尚は母の手紙によつて、一時なりとも名利に心が動いたことを深く恥じられて、以後、ひたすら自己を戒めながら、勉強に努められました。

四十二才の時に、どんな浅ましい悪人凡夫でも、お念仏のみ教えによつて必ず浄土に往生を遂げることができると気づかされ、このことを一時も早く母に知らせようと、初めて山を下り、故郷に向かわれました。

源信の母は既に病床にありましたが、源信和尚より、往生浄土の道は、お念仏にあることを知らされて、

「思えば十三の時にあなたを膝元から離し、二十九年間そのさみしさに耐え忍んで来たのは、このことひとつを聞かせて頂くためでありました。」

と、はらはら落涙して源信和尚の手を握りつつ、お念仏の中に安らかに往生を遂げられたと伝えられています。源信和尚は母の一周忌を迎えられた、四十三才の時に、亡き母を偲んでお書きになったのが有名な「往生要集」であります。

●ホラ



渡部 恵

現代使われている「ホラを吹く」というのは「でたらめや嘘を平気で言う人」という全く悪い意味で使われています。

ホラ吹きは、佛教用語の「法螺」で「法」はみ仏さまの教え「螺」は巻貝という意味の漢字で「法螺貝」の吹く音は大きく威力があり、遠くまで聞こえますので、百獣の王の獅子が吼える「獅子吼(ししく)のようともいわれ、み仏さまの説法が人々を心服させる様子をいわれたさうです。「ホラ」は本来は良い言葉であつたものが、一般社会に溶け込んだ反面、悪い意味で、喩えとして使われるようになった一例です。言葉を口から出そうとする時には、よく考えて良識のある言葉を口にするようにとめたいです。

仏教用語豆ちしき⑦

娑婆

テレビドラマなどを見ていると、刑務所から出所してくる場面で「シヤバに出る」とか「シヤバの空気はうまい」「シヤバの風は冷たい」などといった、自由に解放された世界を娑婆と呼んでいるようです。しかし、娑婆とはインドの語「サハ」の音訳で、耐え忍ぶ土地という意味です。現実には苦しみや悩みが満ちていて、人はそれを耐え忍んでいるところから、現実の世界のことを指しています。

親鸞聖人が、和讃に「娑婆永劫の苦をすてて」と詠じておられるのがそれです。だから、娑婆はそんなに自由な世界ではないのがね。

2003年(平成15年)年忌表

1周忌	—	平成14年
3回忌	—	平成13年
7回忌	—	平成9年
13回忌	—	平成3年
17回忌	—	昭和62年
25回忌	—	昭和54年
33回忌	—	昭和46年
50回忌	—	昭和29年

●3分間の心のともしび 小樽別院

テレホン法話

24時間いつでもどうぞ
TEL 27-1616

みんな 小樽幼稚園 仲良し



～まこと(いのち)の保育を行ないます～



当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるよう保育に努めています。

又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

11月より、願書受付が始まりますので、ご近所・皆様お誘い合わせの上、是非一度見学にお越し下さい。宜しく申し上げます。

- ☆保育時間 → 月曜日～金曜日（8:40～13:30）
- ☆昼食 → お弁当～週3回 / 給食～週2回（パン食／米食）
- ☆預り保育 → 月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です）
- ☆プール遊び → 年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。
- ☆英会話 → 月2回年長のみ行います。
- ☆送迎バス → ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- ☆主な行事 → 花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・バス遠足・いも掘り・報恩講・お遊戯会・おもちゃつきなど。

園児募集

募集園児	3歳児（H12.4.2～H13.4.1生まれ）	20名
	4歳児（H11.4.2～H12.4.1生まれ）	50名
	5歳児（H10.4.2～H11.4.1生まれ）	30名
願書配布	平成15年10月15日（水）から	
願書受付	平成15年11月4日（火）から（13:00～17:00）	
	※11/4以降受付希望の方は、事前にお電話下さい。	
1日体験入園	平成15年10月18日（土）10:00～11:00	27日（月）14:00～15:00
公開保育	平成15年10月20日（月）・21日（火）9:30～12:00	



いちごぐみ ならし保育

入園前のお友達！
週に1度、幼稚園に来て
先生やお友達と楽しく
遊びましょ

対象 満2歳以上 就園未満

日時 毎週火曜日（10:00～12:00）

金額 1回500円

定員 15名程度

内容 自由遊び・絵画・工作・リズム遊び・戸外遊び など

申込み方法 園にあります申し込み用紙に必要事項を記入して頂きます

※ 詳しくは、園までお問い合わせ下さい



僕が目印だよ！

10月から街頭に園児募集のポスターを掲示します！

学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園 TEL FAX **0134-22-6536**